

---

# black of hope

天城 刀夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

black of hope

### 【Nコード】

N7206X

### 【作者名】

天城 刀夜

### 【あらすじ】

初心者なりに頑張っていきたいと思いますので生暖かい目でみてください。

## prologue

頭から滴り落ちる血が俺の視界を赤く染めていく。

大小様々な傷から流れる血が俺をゆっくりと死に近付けていく。

少しでも気を抜くとそのまま二度と覚めない眠りについてしまいうだった。

愛用している黒いフード付きのコートは所々破れていて、その下に着ていた白いシャツは真っ赤に染まっていた。

洗濯が大変そうだ、と内心で場違いな事を思いながら笑う。

周りにはおよそ数千の敵が俺を囲んで武器を構えている。

「気分は如何かな？」

「ゴホッ……この、状況で……良い、なんて……思っ……てん……なら……前  
世からやり直すん……だな」

「この状況で減らず口を叩けるとは流石ですね……」

息も絶え絶えな俺を敵のリーダー格は笑う。

「しかし……いくら貴方と言っても我々には適いませんでしたね」

チツ、たった一人にこれだけの人数を集めた癖によく言う。

喋る度に流れる血、霞む視界、どうやら本格的に危険な状況のようだ。

「ふふふ、直ぐに楽にしてあげますよ」

「ハッ、簡単にはくたばんねえよ」

鼻で笑ってやるが余裕など微塵もないし勝ち目も皆無だ。

それでも逃げるなんて選択肢は無い。

ついさっき敵から奪った無骨なナイフを逆手に構える。

男は嘲笑を浮かべ、一言だけ言った。

「……やれ」

その瞬間、奴らは一斉に武器を手に襲いかかってくる。

何重にも俺を取り囲み何人も同時に切りかかってくる。

それを避けながらすれ違いざまにナイフを振るい敵を切り裂き返り血を体中に浴びながらもそれを繰り返す。

むせかえるような血の匂いが、俺を蝕んでいく。

既に何人切ったのかさえわからない、何人切っても一向に奴らの限りが見えない。

不意に背中にドンツ、と何かがぶつかってきた。

目線を下に向ける。

真っ赤に染まった剣が俺の胸を貫いていた。

「…………ア…………」

剣が抜かれおびただしい量の血が溢れ意識が飛びそうになるが何とか持ちこたえ後ろを振り返る。

真っ赤に染まった剣を何時かと同じ様に、

カタカタと震えながら泣き出してしまいそんな顔で俺を見るかつての仲間が其処にいた。

何かを言おうと口を開こうとするが声が出なかった。

そして、遂に気力もつきた俺は支えを失った棒のように倒れていく。

体が地についた瞬間に俺の意識は闇に沈んだ。  
。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7206x/>

---

black of hope

2011年11月12日22時26分発行